

パブリックコメントへの対応一覧

43件

(全体:19件、序論:11件、基本構想:13件)

パブリックコメントへの対応一覧

No.	該当ページ	該当箇所			意見内容	市の考え方・対応方針(案)	
1	-	全体	-	-	-	総合計画の策定は義務ではなくなりましたが、小田原市であえて策定する理由を教えてください。	地方自治法の改正により、基本構想の策定義務は撤廃されていますが、社会が大きな転換期を迎える中でも、長期的な社会変化を見据え、未来に向けたまちづくりを進めるとともに、市政運営全般の2030年の姿とその実現に向けた取組を総合的にまとめる総合計画の策定が必要と考えています。
2	-	全体	-	-	-	現在の実施計画では、選挙により総合計画の方向性と逆方向の首長が当選したとしても、前の首長の方向性で作られた総合計画に縛られてしまう恐れがあり、それは選挙の結果という直近の民意の反映を阻害することになるため、総合計画の目標年次については総合計画の策定は義務ではなくなったことも考え、首長選挙のある年を最終年とする4年サイクルで回すべき。	首長任期の4年にあわせて、総合計画の策定や見直しを4年サイクルで設定している自治体があることは承知していますが、本市では、時代の変化に的確かつ柔軟に対応していくため、3年3期の計画サイクルとしています。
3	-	全体	-	-	-	小田原市意見公募手続条例では、市政全般における基本的政策を定める計画及び個別行政分野における基本的な事項を定める計画については、意見公募手続を行うこととなっていますが、令和2年度末に制定され、第6次総合計画に引き継がれる2030ロードマップについては意見公募手続がされていません。2030ロードマップの策定に際し意見公募手続を行わなかった理由を教えてください。	2030ロードマップは、第6次小田原市総合計画に引き継ぐものとして作成しており、その内容を含む総合計画行政案として今回の意見公募手続を実施することとしています。
4	-	全体	-	-	-	小田原市意見公募手続条例では、市政全般における基本的政策を定める計画及び個別行政分野における基本的な事項を定める計画については、意見公募手続を行うこととなっていますが、令和2年3月に制定された第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略については意見公募手続がされていません。第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に際し意見公募手続を行わなかった理由を教えてください。	第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市総合計画に掲げる取組や事業を、国の方針も考慮して再構成した、事業レベルの計画であるため、意見公募手続を実施していません。
5	-	全体	-	-	-	平成11年(1999年)、2015年、平成28年など、和暦と西暦が入り混じっている。グラフ等含めて計画内の表示を統一したほうがよいのでは。	見やすい、分かりやすい観点から修正を行います。
6	-	全体	-	-	-	箇所、か所の表記ゆれがあります。	表記を統一します。
7	-	全体	-	-	-	市が提供する各サービス/施策について、想定されるターゲットクラスターに対して、利用者や浸透度(ターゲットの、何%が知っているか)、と言う観点から見える化する事で、効率性が見えて来るので、新しいサービスや施策を評価する事も検討して頂きたいです。	市の事業や施策の評価については、新しい総合計画の策定とあわせて、その手法を検討していきます。
8	-	全体	-	-	-	せっかく大規模な市民アンケートを取っているのに、市の計画にあたってはサービスや施策を使用する側の要望をしっかりと受け止めて、課題を解決して頂きたいです。合わせて、中長期的な目線で、有識者やサービス提供側の考える良い施策を織り交せて、頂きたいです。	今回実施したアンケートの結果については、総合計画の策定や今後の市政運営を進めていく上で参考としていきます。また、今後も同様のアンケートを実施するほか、外部の方の意見も聞きながら施策を展開していきます。
9	-	全体	-	-	-	人口動態、消滅可能性都市の議論を踏まえたコンパクトシティブな観念の必要性についても検討し、それを広域連携地域内において導入する場合、必須である行政(生活)機能ごとの拠点の位置と数、機能ごとの効率性(集中)と安全保障(分散または複線化)の均衡点分析について、地理条件、人口条件、物理的及び時間距離とその前提となる移動手段と方法、通信インフラの有無など専門家による公開討議を希望したい。	人口減少・少子高齢化が進むなか、地域の活力を維持するとともに、持続的な都市経営を推進するため、小田原市立地適正化計画を策定し、取組を進めていますが、周辺市町を含めた区域を対象とはしていません。
10	-	全体	-	-	-	政策の成果は一朝一夕には出てこないもので、とにかくスピード感を持って対応をお願いしたい。	将来都市像の実現に向け、スピード感を持ったまちづくりを進めていきます。
11	-	全体	-	-	-	基本的な姿勢として、コンパクトシティを目指す方向性と、自治体をプラットフォームビルダーにしていく方向性が見られます。前者について、青森市が、アウガという再開発ビルをオープンしましたが、初年度から赤字で、巨額の資金が税金から投じられましたが、経営破綻して失敗に終わっています。また、中心市街地に人を集めることにより、農家の減少、食料自給率の低下、騒音問題、渋滞問題、近隣トラブルの増加などが懸念されます。後者について、これは公共サービスの提供を、共(地域の団体)、私(民間企業)に任せ、自治体はその管理者になるという考えです。総務省の自治体戦略2040構想研究会では、「社会保障は、基本は一人一人自助でやっていけるようなプラットフォームが確保されることで、公助はできるだけ頼らないで済む」と主張されています。現在、コロナ禍で、公共的なものを減らしていくことが、命を削ることにつながることを明らかにしてきました。保健所の削減、病院・病床の削減政策が、守れるべき命を奪っています。自治体は、今までのようにサービス・プロバイダーであり続けさせる必要があります。従って、この2つの方向性に対して反対です。	本市の立地適正化計画では、中心市街地や生活圏を支える各拠点が公共交通によって結ばれ、将来にわたって誰もが暮らしやすく、都市の活力が持続的に確保される多極ネットワーク型のコンパクトシティの形成を目指しています。プラットフォームビルダーの考えは、自治体が単にサービス提供主体となるのではなく、公・共・私のベストミックスにより課題解決に取り組む、そのプラットフォーム形成を進めていくことが重要であり、本市では、市民の力・地域の力を生かした取組を土台としてつづ、さらに幅広く公民連携の取組を推進していくこととしています。

パブリックコメントへの対応一覧

No.	該当ページ	該当箇所				意見内容	市の考え方・対応方針(案)
12	-	全体	-	-	-	私は西宮市から8年前に終活目的で小田原市に移住してきた85歳の老人です。当地は自然環境に恵まれた住みよい土地であると思います。しかし、コロナ禍の発生、異常な気象現象、デジタル化、環境問題、SDGsなど社会情勢はグローバルに大転換の真只中にあります。 この時期に市が2030年を見据えて市の目指すべき方向を求めて総合計画を策定するのは時宜を得たものと考えます。パブリックコメントのみならず、行政全般において常に市民の意見に耳を傾け、行政内容を市民に丁寧に説明し、この計画が行政当局と市民との間で共有され、計画遂行に連携して取り組むものとなる事を期待します。	ご意見のとおり取り組んでまいります。
13	-	全体	-	-	-	総合計画の前に市に直ぐ取り組んでもらいたい事があります。市の発行するすべての地図の方角を「北を上にする」事です。 私は8年前小田原へ来て駅の観光案内所で市街地図を貰い、市役所への行き方を尋ねました。「駅の東口からでも、西口からでもバスが出ていますから、市役所前バス停で降りて下さい」と言われて、貰った地図を見ると南口、北口なら分かるが、どちらが東口か分からない、「北が右斜め上」を向いた地図で、当惑しました。この不都合さは、小田原土着の人には分からないようですが、外来者、観光客には極めて不親切なものです。 最近誰でもスマホでMAP検索をしますが、市の観光地図と方角が一致しないのでお城の周辺で迷っている人を見かけます。 先日、市が発行された高潮浸水想定区域図、小田原三の丸ホールパンフレットの近隣施設ご紹介MAPは北が上になっていますが、今年度「おだわら市民ガイド」99ページの「施設マップ」は従来通りの方角です。来年度からは改めて下さい。	地図については、それぞれの用途に応じて盛り込む内容や見やすさを考慮し、製作・掲載しており、北を上にしらない場合は、必ず方位記号を入れています。ご意見は今後の検討の参考としたいと考えます。
14	-	全体	-	-	-	また、総合計画は、「SDGs未来都市計画」との整合性は取れているのでしょうか？ 今回の施策との紐付けを明確にしておくべきではないでしょうか？	現行の小田原市SDGs未来都市計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略は、総合計画との整合を図ったものになっており、第6次総合計画においてもその整合を図っていきます。
15	-	全体	-	-	-	第5次で作成した「地域別計画」の位置づけはどのようなのでしょうか？	第6次総合計画においても、地域別計画の役割が変わるものではなく、地域における福祉、防災、環境などの領域の主体的な課題解決の取組を促進するとともに、総合計画と一対となり、本市のまちづくりを進めるための計画として位置付けています。
16	-	全体	-	-	-	6次においても地域が自分事として計画を進めるためにも地域別計画が必要だと思いますが、どのような計画になっているのでしょうか？	総合計画策定の翌年度以降に地域別計画を改定していく予定です。
17	-	全体	-	-	-	KGIは行政と市民の共通の目標になるので、設定根拠を明確にし、達成度合いが数値で測れるものにすべきです。	重点施策及び実行計画の目標値について、定量的な指標の設定に努めましたが、ご指摘のとおり、一部定性的な指標を設定しています。指標の設定については、総合計画審議会の意見も踏まえながら、検討していきます。
18	-	全体	-	-	-	基本構想がある程度固まった時点で、再度、施策・詳細施策についてのパブリックコメントを求めることを検討してください。	第6次総合計画行政案に係るパブリックコメントで提出された意見は、総合計画審議会に示し、議論を進めるとともに、基本構想は12月定例会で議会に提案していくこととしており、改めて実施する考えはありません。
19	-	全体	-	-	-	残念ながらこの約10年間、小田原は人口も産業も自然も減りました。この総合政策を見るとまだまだ足りないところがあると思いますが、2030年は明るい小田原が期待できます。ぜひ「世界が憧れるまち“小田原”」を目指していただきたいです。	「豊かな環境の継承」を土台に、「生活の質の向上」と「地域経済の好循環」の両輪を持続的に回しながら「世界が憧れるまち“小田原”」を実現してまいります。
20	3	序論	2 計画の構成と計画期間	-	-	策定基本計画に9年、実行に3年3期のうち、9年は長い気がする。計画を立てながら、優先順位を見極め、基本計画をブラッシュアップするところと、医療、街づくり、安全について喫緊の課題を早急に計画するように分けた方が良いのでは？	9年後の2030年に目指す姿を示した上で、3年3期で実行計画の見直しを図る計画とするとともに、毎年度、施策展開の共有や方向性を見直しを図ることとしており、喫緊の課題にも的確かつ柔軟に対応していきます。
21	4	序論	3 ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた視座	新型コロナウイルスによって顕在化した課題	-	集中化という都市の歴史は、人間という生物の許容範囲を超えてしまったとはどういう意味ですか？	都市の歴史は、狩猟採集から農業に移り、さらに町が生まれてくる集中化の流れで、現代の大都市の高層化のように、人間という生物の許容範囲を越えた環境をつくってしまっただけという解釈をしております。
22	4	序論	3 ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた視座	新型コロナウイルスによって顕在化した課題	-	教育、病院、住居などのインフラの住居とは、社会的インフラとしての公的な住宅の事を言っているのですか？	公的な住宅に限りません。暮らしの基本となる住居、教育、病院を意図しています。
23	4	序論	3 ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた視座	ポストコロナ社会における小田原の可能性	-	ストリートの定義を教えてください。	ストリートは、単なる道ではなく、情報共有や、人と人が出会う場所を意図しています。
24	5	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題	(1)新型コロナウイルス感染症の影響	-	とにかくワクチンを急ぎましょう！ ミナカ、ハルネ等、駅近で接種できる様なインフルエンザの様に打てる体制づくりを	小田原駅前のクリニックでモデルナ社製のワクチンでの接種を開始したほか、10月から集団接種での接種回数を増やしたり、接種回数の多い会場にワクチンを優先的に供給をするなど体制の強化を行います。

パブリックコメントへの対応一覧

No.	該当ページ	該当箇所		意見内容	市の考え方・対応方針(案)	
25	5	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題 (1)新型コロナウイルス感染症の影響	-	色々な所に”スピーディー”という言葉が出てくるが、今回のワクチン接種に関しても、集団接種を始めるのが他市に比べて非常に遅く(鎌倉市より1か月後)、何故か医師会の接種が優先されていたおかげで6月24日に県から発表された接種率は、鎌倉市31.16%・小田原市2.80%と1桁も違うものだった。発表された2日後に市立病院での集団接種を始めた。市民は見ています。どんなに言葉でスピーディーと言っても、市長は市民の命より、医師会の利益を優先したんだなど。言葉ではなく行動で示さないと不信感が冗長されます。	本市ではクラスター対策のため、高齢者施設の入所者等を優先して接種を始めました。高齢者や基礎疾患のある方は、多くがかかりつけ医を持っており、個別接種を主体に実施しています。ご指摘の6月24日は本市の個別接種での2回目の接種が始まっていない時期であり大変低い数字となっていました。同じ資料の1回目の接種率は鎌倉市52.59%、小田原市37.18%と接種を進めていました。
26	6	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題 (3)SDGsの取組	-	P.6にも書いてあるように小田原市の素晴らしいところは、他市に先駆けて、未来を見据え、色々な場面で真にSDGsの取り組みを行ってきたことにある。	持続可能な地域社会の実現に向けた本市の取組は、SDGsの理念を体現するものであり、第6次総合計画においても、この考えは継続して位置付け、取組を展開していきます。
27	9	序論	4 社会情勢の変化と本市の課題 (11)行政に求められるもの	-	(P9の図面について)幹線(鉄道)の矢印が鴨宮駅周辺の円から東京方面に2つ引かれています。1つは国府津に行く東海道線。もう一つは新幹線ですか?であるならば、鴨宮駅周辺の駅と交わらない方が良いと思います。	ご指摘のとおり、東海道線と東海道新幹線をイメージしたものとなります。小田原駅周辺からの動線を見やすくするため、1つの矢印としたことから生じた問題と認識しております。立地適正化計画において、誰にもわかりやすいイメージ図となるよう検討してまいります。
28	10	序論	5 市民アンケート調査結果	-	計画の行政案の中で、市民アンケートを実施して、その結果をまとめていっしょにいます。今回の計画案はその内容を捉えて、実践しようとしていますでしょうか。	今回実施したアンケートの結果については、総合計画の策定や今後の市政運営を進めていく上で参考としていきます。また、今後も同様のアンケートを実施するほか、外部の方の意見も聞きながら施策を展開していきます。
29	10	序論	5 市民アンケート調査結果	-	アンケートについて、医療に対する「何が充実すれば小田原市の医療に安心できるか」のアンケート結果も、トップ7はどれもクリティカルに重要な項目のように見受けられます。また、新病院の建設だけでは解決できない課題が多いのではないのでしょうか。サービス提供側の意見だけではなく、利用者の視点から、医療充実のために、ハコモノの建設に終わらず、ソフト面の強化もぜひ議論する事を検討して頂きたいです。	市民が24時間365日安心して医療が受けられる体制を目指して、救急医療体制の確保や、医療機関の連携の推進に取り組んでおり、今後も市民の生活に寄り添う医療を提供できるよう、関係機関と連携して参ります。また市立病院では、医療関係者や学識経験者、利用者で構成する市立病院運営審議会でご意見をいただきながら、県西地域の基幹病院として必要とされる医療の提供に努めていきます。
30	10	序論	5 市民アンケート調査結果	-	市民アンケート調査について、今回の市民アンケート調査は、第5次総合計画と比較して、期間も短く回収件数も少ない。また回答者の属性(年代別、性別など)も公表されていないため、市民意識を正しく分析把握できていないのか疑問です。例えば、行政のデジタル化の現状で30歳代と80歳代の不満の内容は全く異なるのではないのでしょうか?第5次総合計画時と同等の市民アンケートを行ない、比較分析するべき、その上で基本構想が市民の意識にそったものになっているか確認した上で施策検討するべきだと思います。	アンケート結果について、計画行政案に示している内容は結果の一部分を抜粋しているものであり、アンケートすべての回答結果は報告書としてまとめています。報告書では、回答結果のクロス分析も実施しています。
31	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	市民力や地域力とはどのようなものですか?	本市では、福祉、防災、環境などの領域で、日々の実践活動や地域の課題解決に取り組む市民や地域コミュニティ組織、市民活動団体等が数多く存在しており、その推進力を市民力、地域力と表現しています。
32	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	「世界が憧れるまち“小田原”」について、ぜひ多くの市民にこの言葉を聞くたびに、どのように感じるかを聞いてほしい。市長は選挙の時、ひとり10万円と書いた上に前市長が1か月前に出した政策を自分の政策のように公報に書きました。本当に政治家として恥ずかしい行為です。ですからこの言葉を聞くたびに市民は失笑してしまうのです。もうこのフレーズはやめませんか。	日本の都市は、世界から見ても治安、環境衛生、医療などの面で優れており、取り分け小田原には、こうした要素に加えて、歴史・文化・自然・交通インフラといった、他都市が羨むほど多くの地域資源が整っていることから、その魅力を十分に引き出すことにより「世界が憧れるまち“小田原”」を実現していきます。
33	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	2030年実現をめざす基本方針について、「世界があこがれる町小田原」という市の、市長のキャッチフレーズに、市民が採れはてしています。市民にとっては「私の町いい町だよ」と言える町であらばいい。そんな町作り計画を作ってください	多様化する価値観を的確に捉えながら、住んでいる方が、これからも暮らし続けたいと思う施策とともに、小田原に住みたいと思う方を増やすことができる施策を総合計画にまとめ上げていきます。
34	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	小田原市は第5次総合計画「おだわらTRYプラン」に基づき、「市民の力で未来を拓く希望のまち」を目指し、市民力や地域力を生かした課題解決への取組が行われ、その取組が評価され、SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業にも選定されたと思いますが、第6次総合計画においても、この市民力、地域力を強化し、課題解決への取組拡大を加速していくことを、基本構想のまちづくりの基盤強化として目標にかかげ、最重点施策として取り組むべきではないのでしょうか?	第6次総合計画では、わが国でも特筆すべきレベルに成長した市民力や地域力を土台とし、持続可能なまちを実現していきます。また、重点施策では、福祉・防災の領域を中心に、市民の力・地域の力を生かした取組を位置付けています。
35	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	基本構想 1まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿の、1行目「森里川海がひとつらなり・・・」という表記がわかりづらい。違う言い方や「」・を使うとか、ひとつらなりという文言を変えするなど市民にすんなり容易に入ってくる表現にしてほしい。	市民にとって分かりやすい表現に努めるとともに、分かりにくい箇所には注釈等を追記していきます。

No.	該当ページ	該当箇所			意見内容	市の考え方・対応方針(案)	
36	14	基本構想	1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿	-	-	誰もが豊かな生活を送りたいと思うし、誰もが安心して生活したいと思っているでしょう。 病気になるたら安心して治療が受けられる体制、質の高い教育を受け社会を豊かにしていく人材の育成などは、誰もがが必要と思いながらも、コストがかかります。そのコストを市民として負担していこうとすると、残念ながらそのコストを負担しようとする市民層や負担できる所得層がいなければ、豊かな社会を築くことは出来ません。 本行政案の(1)生活の質の向上(2)地域経済の好循環(3)豊かな環境の継承は小田原市が10年後の目標として賛成できます。 人口増加と企業誘致は上記目的を達成するに有効手段と考えます。 私は不動産・保育所やその他事業を経営しております。その中で満足なことは豊かな自然と温暖な気候、都市的サービスも受けながらも東京ではない東京とは同じでない町を心地よく感じています。 人口増加を自然破壊と唱える方も言うかもしれませんが、放置された空き家、耕作されていない農地、整備されたいない森林・河川管理や海岸・護岸整備など人口が減っていても自然破壊が進んでいます。これは人口問題と関係のない問題です。 それは人口が20万人になっても、豊かな自然を守る施策ができるれば、今以上に豊かな自然を生み出すことができます。	医療、福祉、教育等の充実による「生活の質の向上」と、企業誘致や新しい働き方に対応した環境作り等による「地域経済の好循環」、そしてこれらの土台となる「豊かな環境の継承」という3つのまちづくりの目標に向けた取組により、小田原の魅力を高め、人を呼び込んでいきたいと考えています。
37	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(1)行政経営	-	アンケートの「市民と行政がともにまちづくりを進めるうえで何が必要か」の結果に対して、市の情報の公開、提供とありますが、その対応はされておりますでしょうか。「市のホームページを見れば載っている」と考えてはおりませんか。ただ情報公開するだけでは不十分と捉え、情報を浸透させるための解決策を探って頂きたいです。市が頑張ら準備されたサービスや支援はあるのに、それを必要としている方々に行き届いていない事も多々あるように思われます。	今後もSNSや動画等、様々な広報手法を積極的に活用するとともに、これまで以上に庁内の担当課と連携を図ることで、より効果的な情報発信を行い、情報を必要とする市民に行き届くよう展開していきます。
38	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(1)行政経営	-	役所内も縦割りの組織となっており、その中で真面目に仕事をすればするほど、よりその組織に染まっていき、自分のことしか見えないという悪循環に陥っているように見受けられる。しかしながら、多くの課題は組織横断的に解決する必要があり、柔軟な対応が求められることがほとんどである。特に、空き家を含む既存ストックの活用、移住定住による人口増等の施策については、総合政策的な課題が多い。これらの課題について横断的に意見交換等出来る場を積極的に設けていただきたい。	社会が複雑化するなか、多くの課題への対処が組織横断的かつ柔軟な対応が求められる認識を持ち、総合的な対応が必要なものについては、重点施策にも位置づけながら取組を進めていきます。また、市民や関係機関との対話の場を積極的に設けるなど、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。
39	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(2)公民連携・若者女性活躍	-	公民連携という言葉がやと役所側から出てくるようになったが、一時、官民の癒着による不正が横行した以降、官と民との距離は遠くなっており、今の行政内には、そのネットワークもなく、どうやって官側から民へアプローチしたらよいか？わからないケースが多々あると思われる。まずは、各課題に対して官と民との対話の場を積極的に設ける必要があると考える。	これまで以上に魅力的で持続可能なまちづくりの実現を目指すためには、民間事業者との連携を飛躍的に強化・推進する必要があると考え、小田原市で取り組むすべての事業を提案募集の対象に民間事業者からの提案募集を開始しました。今年度は試行として、市内に事業所を有する法人若しくは個人事業主又は法人等のグループとしています。
40	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(2)公民連携・若者女性活躍	-	総合計画を活かすものにするために、官と民が常に気軽に対話できる体制づくりを望む。	小田原市民間提案制度を活用し、官と民が連携を取れる体制を構築していきます。
41	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(2)公民連携・若者女性活躍	-	まちづくりの推進エンジンに「(2)公民連携・若者女性活躍」があるのはすばらしい。しかし、この計画案全体に女性活躍に力を入れているという感触が伺えない。総合計画なのでこういう記載になるのかもしれないが少し残念である。	市役所が一丸となり、若者や女性が活躍できるまちづくりに向けて、取り組んでまいります。
42	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(3)デジタルまちづくり	-	デジタル化の推進について、これは時代の流れからも進める必要はありますが、大事なものは住民の合意と個人情報の保護です。そのため、大胆に進めるのではなく、まずは市役所の業務に関する事で、できることから始めるべきだと思います。市の行う説明会への参加が電話予約のみというのがありました。メールで申し込むことも可とする、そんなことから始めるべきです。そして、スーパーシティの再提案には、応じないようにすべきです。「若盤規制の大胆な緩和」をもとめられているので、住民の合意を得たうえで提出し直す時間ありませんから。	小田原が有するポテンシャルにデジタル技術と規制改革を組み合わせることで地域課題を解決し持続可能な小田原を実現するスーパーシティ構想の採択を目指している。よって引き続き取り組んでまいります。
43	17	基本構想	3 まちづくりの推進エンジン	(3)デジタルまちづくり	-	デジタルの町づくりについて、国の施策にいち早く乗って小田原市をアピールしたいようですが実力が伴っていません。じっくり職員的能力を育てる基本的なプランでじっくり進めて下さい。	「デジタル技術を最大限に活用し、持続可能で活力のあるまちづくりを推進することで、豊かな未来社会を実現する」という理念のもと、デジタル化によるまちづくりに取り組んでまいります。